

# 「安全・安心のまち」の 実現に向けて ～新たな課題への取り組み～



千葉市消防局長 石塚 正徳

千葉市は、東京湾の穏やかな海に面した日本一の総延長を誇る人口海浜（いなげの浜・検見川の浜・幕張の浜）を有し、郊外には里山も残る、温暖な気候に恵まれた都市です。

本市では、市民が自らのまちの魅力を知り、誇りをもつことができるような、また、市外の方に訪れてみたいと思っただけのような都市となることを目指し、様々な取り組みを行っています。平成30年は、千葉のまちの礎を築いた千葉氏中興の祖、千葉常胤の生誕900年の年であり、これに合わせて、千葉氏ゆかりの自治体の首長が一堂に会し、第2回千葉氏サミットを開催しました。また、昨年10月には、文化財保護法の規定により、集落を伴うムラ貝塚として日本最大級の遺跡である加曽利貝塚の特別史跡指定が告示され、貝塚として日本初・県内では初の特別史跡となるなど、都市アイデンティティ（千葉市らしさ）の確立に向けた取組みを推進しています。

東日本大震災から7年が経過するなか、地震調査委員会による「全国地震動予測地図2018版」では、本市で今後30年以内に震度6以上の地震が発生する確率が85%と、都道府県庁所在地で最も高い結果となり、様々な災害に即時対応する消防の役割がますます大きくなっています。当局では、大規模・複雑多様化する災害から97万市民の安全・安心を守るため、今年度は2つの事業に力を入れております。

1つ目は、「住宅防火対策の推進」です。延焼危険性の高い地区を対象に、大規模地震時における電気火災抑制の効果が期待できる感震ブレーカー等の無償配布や、設置費に対する助成を実施しています。さらに、他の地域についても、市民の自助による設置が進むように様々な普及啓発活動を推進しています。また、住宅防火講話及び一人暮らしの高齢者を対象とした住宅防火訪問指導、幼少年向け防火教育を積極的に実施することで、幼少年から高齢者まで各世代で必要とされる防火知識の普及啓発を図っております。

2つ目は、「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けた安全・安心な体制の構築」です。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（オリンピック3競技・パラリンピック4競技）が幕張メッセで開催されることから、開催競技場管轄消防機関として、対応計画の内容を充実させ、安全・安心な体制の構築を図っております。また、警防面だけでなく、宿泊施設や観光客が立ち寄る可能性の高い観光施設及び事故発生率が高く、テロの標的として懸念される危険物施設等に対する重点査察等に努めています。

本年11月には、本市が昭和23年に千葉市消防署を設置し、自治体消防としての一步を踏み出してから70周年を迎えます。この70年の間に先人の叡智とたゆまぬ努力により組織・施設・人員等の消防力の強化を着実に図って参りましたが、今後も、新たな課題に正面から立ち向かい、「安全・安心のまち 千葉市」の実現に向け、職団員一丸となり、全力で取り組んでまいります。